

JForest

森林組合だより

令和元年11月30日

発行

第 126 号



一番早く切り落とすのは誰か!?
丸太切り競争

10月20日開催 森林組合まつり

本荘由利森林組合

由利本荘市水林381

TEL 0184-24-4141(代) FAX 0184-24-4143

HP <http://www.honmori.com/> メール honmori@trad.ocn.ne.jp



第14回 森林組合まつり

10月20日(日)、西目町沼田にある当組合の製材工場「木香里」にて、第14回森林組合まつりを開催しました。

当日は前日の雨模様から打って変わって快晴となり、開場時間前から大勢の方々にご来場いただき、賑わいの中での開会となりました。

今年度の組合まつりには秋田マッカーラー株式会社様、株式会社ジェイエイ秋田しんせいサービスAコープやしま店様、有限会社みどり商事様から協賛をいただきました。

毎年恒例となっているブルーベリーの苗木プレゼントも開会早々に用意した300枚の券がなくなり、残念がる方も多かったようです。



体験・見学コーナー

安全基準の変更により今年度から高所作業車体験は行いませんでしたが、そのこともあってかウッドバーニング等の体験コーナーは列が絶えないほど盛況でした。
新たな体験コーナーをご要望の声も多いので検討してまいります。



飲食コーナー

例年より休憩スペースを増やしたこともあり、購入した食べ物を家族で楽しむ様子が多く見受けられました。
昨年度よりも品数は減ってしまいましたが、相変わらずの盛況ぶりを見せていました。



販売品コーナー

林業用具や製材品、木工品の販売も例年通りの賑わいを見せ、特に今年度は製材品を買い求めるお客様が多いようでした。
サワガニの販売ブースでは普段見ることがないからか小さなお子さんが興味津々でコンテナを覗き込む様子を見て微笑ましく感じました。
直売コーナーも好評いただきました。時間内に完売しておりました。

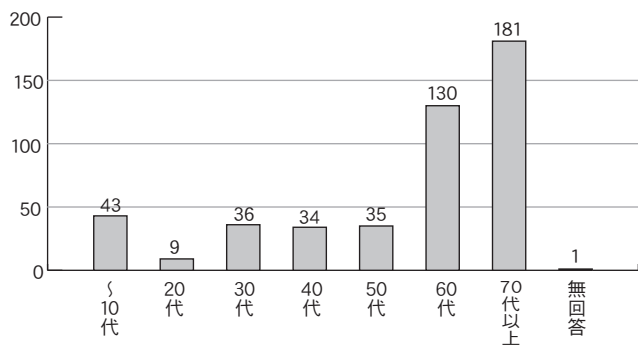


森林組合まつりアンケート集計結果

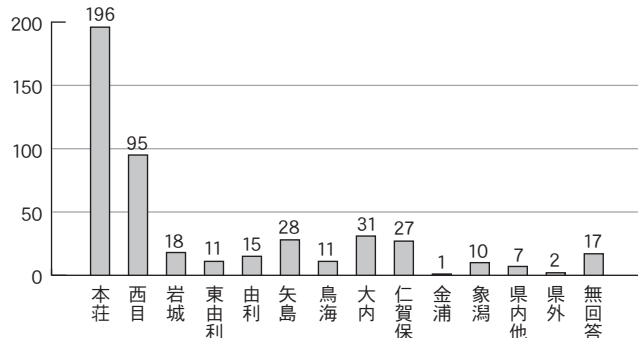
森林組合まつりでは、ご来場いただいた皆様へアンケートを実施し、469名の方からご回答いただきました。集計結果は以下の通りです。後継者未定の山林所有者の方が非常に多く、今後の森林経営に不安を抱いている方への対策を講じなければならないと感じました。

また、皆様から寄せられたご意見を来年の組合まつりに取り入れ、皆様により楽しんでいただけるよう努力してまいります。ご協力誠にありがとうございました。

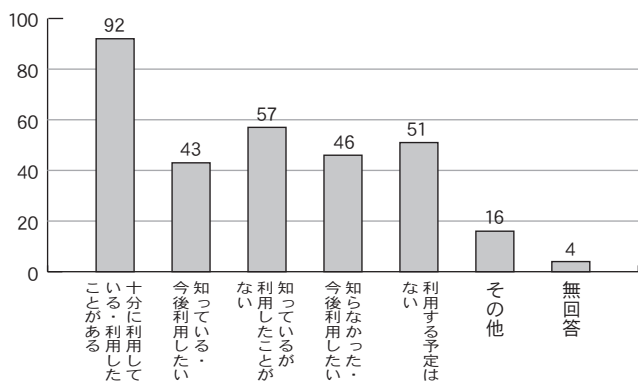
Q. あなたの年齢を教えてください



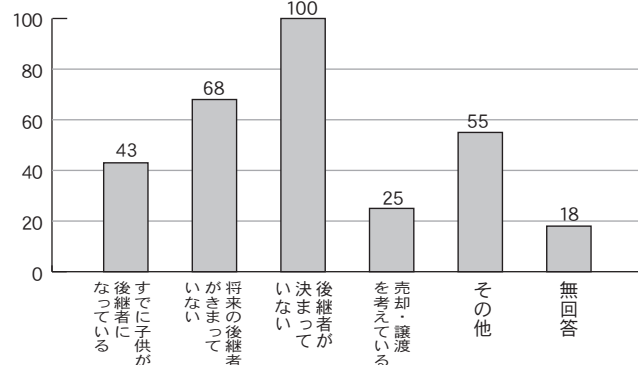
Q. お住まいを教えてください



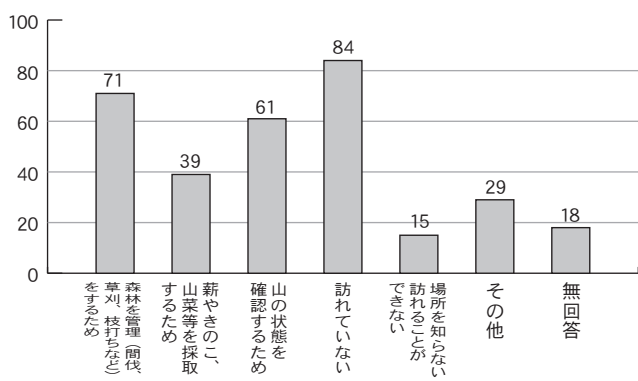
Q. 補助事業(補助金)を利用し、山の手入れをされていますか



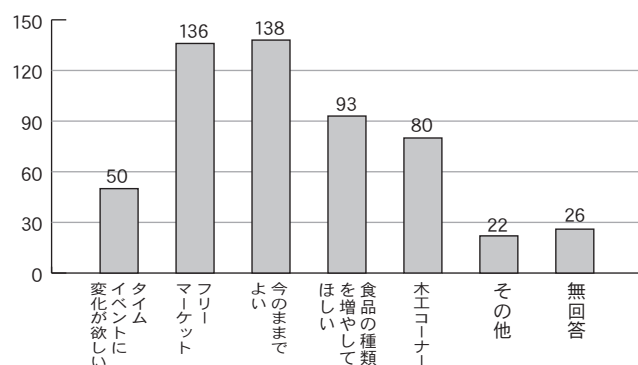
Q. 森林を管理する後継者はいらっしゃいますか



Q. 過去2,3年の間に所有している森林を訪ねましたか(複数回答あり)



Q. 組合まつりで行っていただきたい行事はありますか(複数回答あり)



皆様のご意見

- ☆やはり重機を体験できるコーナーがほしい。
- ☆木工の小物等も販売してほしい。
- ☆ウッドバーニングの台数を増やしてほしい。
- ☆丸太切りの子どもの部を行ってはどうか。
- ☆丸太積み、丸太切りの受付人数を増やしてほしい。
- ☆子どもが楽しめるコーナーがほしい。
- ☆きのこ用のホダ木を販売してほしい。
- ☆盆栽の展示などをしてほしい。

- ☆もっと情報を発信してほしい。
- ☆毎年楽しみにしているのですと続けてほしい。
- ☆半端な板材等を安く販売してほしい。
- ☆販売している木材の種類を増やしてほしい。
- ☆初めて参加したが盛況ぶりに驚いた。来年も楽しみにしている。
- ☆場所が分かりづらいので7号線沿いに看板を設置してほしい。
- ☆木とふれあうコーナーがあるといい。

etc...



由利工業高校生・西目高校生 インターンシップ

9月3日(火)～5日(木)までの3日間、由利工業高校・西目高校の生徒が参加しインターンシップ研修(職業体験)を行いました。

初日の午前は座学を行い、基礎知識や現場での注意事項などを、午後は西目の木材センターと製材所を見学して入荷した丸太の販売や加工について学んでいただきました。

2日目は現場での作業に立ち会い、いくつかの重機の操作体験を行いました。運転席にある複数のレバーやスイッチの把握に悪戦苦闘していたようですが、すぐに慣れ、次の生徒に操作方法を教えている姿に感心いたしました。

最終日はGPSを用いた測量や立木調査、刈払機の体験



を行い3日間の研修を終えました。

研修後に届いた御礼状には
☆林業機械の充実により、体力と同じく技術も重要だと感じた。

☆元々林業にあまり興味はなかったが、幅広い業務に驚くと同時に興味も湧いてきた。

☆進路を決めかねているが、今回の体験で林業への魅力を感じ、候補のひとつとして考えたい。

林業への関心向上や、就職に対する前向きな意欲、働くことの大変さなど様々な感想が御礼とともに綴られており、学生の皆さんの進路選択の幅が広がり、今後の参考となったと思っております。

中学生向け職業説明会に参加

7～9月に由利本荘市、にかほ市の中学生を対象にした職業説明会が開催され、当組合も地元林業をアピールするために参加させていただきました。

いわゆる3K(きつい、汚い、危険)と男性の職場というイメージが未だ根強い業界ですが、高性能林業機械の導入や行政の支援等によって、少しずつ払拭されてきている現状や、林業女子と呼ばれる女性の従事者も全国的に増えていることを説明いたしました。

労働力が都市部へ集中し、地方では人材の確保が難しくなっている昨今、このような林業アピールの機会を得ることは非常に重要です。

当組合でも自発的に業界のマイナスイメージを払拭し、若年層が働きたいと感じる職場環境を作る努力をして、地元の若者を繋ぎ止める一助になればと考えております。



8月26日(月)に東北・北海道ブロック「令和元年度林業グループコンクール」が秋田市のさとみ温泉にて開催され、今年2月の秋田県大会で1位を獲得し秋田県代表となった当組合林業研究会の小番正裕氏と秋田県立大学生が事例発表を行いました。

北海道・東北代表としては宮城県代表の特定非営利活動法人SCR様が選出され、当組合研究会は残念ながら選外という結果になりましたが、10年以上活動が続いている継続性や地域の子ども向けに実施している「木工教室」、「森林教室」等の取り組みを高く評価いただきました。

今回の結果に学生の方々も非常に残念がついていますが、若い世代が関わることで高齢化の進むこの業界へ活気を与える等の好影響を本県だけではなく、他県も含めた地域にも広げる足がかりになったのではないかと考えております。

北海道・東北ブロック 「令和元年度 林業グループコンクール」



造林技術最前線（低コスト化に向けて）

これまで林業における技術革新は、高性能林業機械などの開発が中心に進められ、造林技術などは立ち遅れてきました。しかしながら、近年、林業の成長産業化を推進するなどの観点から、育林コストの低減を図る必要性にせまられています。

今回は、これらについてご紹介いたします。

1 今なぜ“低コスト”か

- ◆現在、皆伐後の再造林率は、全国的に20%~30%の現状
（最大の要因は、伐採収入に比べ、再造林コストが高いこと）
- ◆今後とも、①原木価格の大きな上昇が望めないこと、②住宅資材の主流となった合板、集成材の原料は「並材」で可能なことなどから、造林コストを下げることで打開策を得るという方向性（現在の1/2程度が目標）
- ◆国・県の林業研究機関等が核となり、平成21年度からプロジェクト研究を開始
成果の一つとして、伐採と植栽を同時並行して行う「一貫作業システム」を開発
- ◆東北でも、平成25年度から、前述と同様の研究チームをつくり、多雪環境に適したシステムをとりまとめた

2 近年確立された主な低コスト化造林技術

①一貫作業システムとコンテナ苗

- ◆一貫作業システムは、伐採と再造林を連続して行う作業のことで、コンテナ苗を使用することから、従来の地拵え作業と植栽行程が大幅に省力される

☆コンテナ苗とは：プラスチック製の特殊な容器に培地を入れ、種子をまき育てた苗木のことで、培地が根鉢となっているのが特徴
専用の器具を使って植えることから、植え付け行程が早いこと、真冬以外は植栽可能なこと、活着率が高いことなどがメリット

②植栽本数の低減（植栽本数をどこまで減らせるか）

- ◆共同研究の結果によれば、スギの場合1,000本/haでは、成長にバラツキが認められ将来の形質などが懸念
- ◆一方、2,000本/haの場合は、現在の標準的植栽本数である2,500本/haとほぼ同等の優良林分に育成することが可能と判明

③下刈り回数の削減（7年間実施の場合）

- ◆下刈りの省略できる年度を検討
- ◆一貫作業の場合は、1年目は省略可能
- ◆2年目は、省略すると雪害や誤伐が増えるため下刈りは必要
- ◆4年目と6年目は下刈りを省略しても、周囲の雑草木による被圧の影響は少ない
- ◆従って、下刈り省略は、植栽年、4年目、6年目が可能

3 まとめ

- ◆研究成果のごく一部をご紹介しましたが、これらの低コスト化技術をもとに、現地試験等を通じて試算した結果、スギの場合は、従来の作業行程に比較し、約4割以上のコスト削減が可能なが判明しました。
（※現地試験は、従来苗を使用して実施）
- ◆コンテナ苗については、価格が従来苗の1.5~2.0倍であることが課題です。
- ◆しかしながら、こうした結果は、全ての林分に一律に摘要することはリスクを伴うことから、それぞれの林況を判断して対応することが必要です。
また、低コスト化を図ることは、森林所有者の利益の増大などの面において、大切なポイントとなりますが、育林作業における質的な低下を意味するものではありません。
持続的な森林資源を造成するためには、従来どおり“良い林”を作ることが基本となると思われます。

木材市況情報 (令和元年)

単位：円、上段（石当り価格）
下段 ㎡当り 価格

樹種	材長 m	径級 cm	9月3日			10月2日			11月6日		
			高値	安値	平均価格	高値	安値	平均価格	高値	安値	平均価格
スギ	3.65	14下				(2,015) 7,256	(2,015) 7,256	(2,015) 7,256			
		16~22	(2,778) 10,001	(2,777) 9,999	(2,777) 10,000	(2,862) 10,306	(2,734) 9,844	(2,822) 10,162	(2,936) 10,571	(2,883) 10,380	(2,918) 10,508
		24~34	(3,575) 12,870	(3,419) 12,311	(3,498) 12,594	(3,611) 13,001	(3,343) 12,036	(3,479) 12,525	(3,650) 13,140	(3,359) 12,095	(3,516) 12,659
出材量・販売量・販売率			721㎡(2,595石)・721㎡(2,595石) 100%			697㎡(2,509石)・644㎡(2,318石) 92%			666㎡(2,397石)・638㎡(2,296石) 95%		

9月：16～22cmは応札枚数が1枚で引き合いが弱かったが24～34cmは材質もよく3～4枚の枚数を集めて引き合いも強く好値の取引となった。来月以降もこの傾向は続きそう。
10月：常連の山形県勢、量産工場、地元業者の参加でほぼ完売。価格は横ばいからやや強含みの推移で製材所の原木在庫は減少傾向である。
11月：1物件が応札なしだったほかは完売。主に山形県勢の手当が目立った。単価は前月よりやや強含み。この傾向は、しばらく続きそうな気配。



当組合もこれまで微力ながら管理面などにおいて継続してお手伝いをしてまいりました。今後とも未永く継続され、豊かな森が次世代に引き継がれることを期待しております。



「東証上場の森」15周年記念セレモニー開催



9月13日、花立牧場内にある「東証上場の森」にて、15周年記念セレモニーが開催されました。セレモニーには、東京証券取引所の宮原代表取締役社長をはじめ、由利本荘市や本荘由利森林組合の関係者など多数参加のもと、記念植樹が行われました。
東証上場の森は、東証初代社長が旧矢島町出身であったことが縁で植樹活動がスタートし、これまでの植栽本数約3千本に達しています。

総務課からのお願い

賦課金納入時期が過ぎております。

未納の方へは、通知等でお知らせしておりますので、早急に納入をお願いいたします。ご不明な点は、本所または各支所へお問い合わせください。

相続届や氏名住所変更届け等について

変更があった場合は、速やかに届出をお願いします。各種手続きの所定の用紙は本所・各支所に準備しております。



美しい自砂青松をめざして!

松林健全化ボランティア



10月5日(土)本荘マリーナ周辺及びにかほ市金浦の海岸林の2会場で、落葉除去のボランティアが行われました。前日までの雨もあがり、当組合はじめ多くの市民が参加し、美しい自砂青松をめざして汗を流していました。